

授業改善推進プラン

氏名 (田辺 大二郎) 担当教科 (英語) 学年 (1 学年)

学力調査・アンケート等の課題分析

- ・板書のわかりやすさについて否定的な回答は1件しかないのに、授業目標の提示があるかという問いには8件(3割)が否定的だった。毎回 Goal を板書して提示していたが、Goal がないまま、授業自体はわかりやすかったという不思議なことが起こっている。一つひとつの活動は楽しかったとしても、Goal につながらない、学びのない遊びの活動になっていたおそれがある。

授業等の課題分析

- ・生徒が学習活動の意図や効果を見失って、意味理解を伴わない音読やペアワークを行っている場面が見られた。活動前や活動中に説明したが、伝わらないことがあった。
- ・学習活動に参加できない、集中できない生徒が複数いた。



目指す授業

- ・生徒全員が達成感を味わうことのできる授業を行う。



授業改善のための具体的な方策

- ・活動ごとの Goal、授業の Goal、単元の Goal を意識しない限り達成感は生まれなため、単元のはじめ、授業のはじめ、活動のはじめに Goal を共有する。
- ・英語の授業は英語で行うことになっているが、Goal や活動の指示を英語で伝えようとしても伝わらない生徒もいるため、必要に応じて日本語を使う。本来は、英語の指示を理解できるように生徒の英語力を引き上げるのが指導だが、現状を考慮する。
- ・Goal や活動の手順などを生徒同士で確認し合う時間を設定する。

授業改善推進プラン

氏名（ 田辺 大二郎 ） 担当教科（ 英 語 ） 学年（ 2 学年 ）

学力調査・アンケート等の課題分析

- ・わかりやすさに関して否定的な回答が多い。また、積極性に関しても否定的な回答が多い。因果関係はわからないが、相関はあるかもしれない。相関があるのであれば、教師の工夫で改善しやすいのは「わかりやすさ」の方だと思われる。

授業等の課題分析

- ・活動に消極的な態度の生徒が複数いる。アンケートからわかる積極性の低さとも整合する。
- ・わかりにくいから積極的に参加しないのであれば、わかりやすくする工夫が必要である。



目指す授業

- ・生徒全員がわかる授業を行う。
- ・生徒全員が達成感を味わうことのできる授業を行う。



授業改善のための具体的な方策

- ・スモールステップで理解させ、理解したかどうかを生徒同士で確認する時間を設定する。
- ・活動の意図や効果を説明し、活動ごとに Goal の達成を確認する。

授業改善推進プラン

氏名（ 高草木 直子 ） 担当教科（ 英語 ） 学年（ 3 学年 ）

学力調査・アンケート等の課題分析

領域診断テストの結果では都平均をやや上回ったが、基本的な力が十分についていない生徒が一定数、また授業アンケートでは「学ぶ楽しさ」をあまり感じられないと答えた生徒も一定数みられた。これら2つのことは関連し合っていると思われる。このことから、習熟状況は異なっても自己の成長を感じられるような授業を行う必要があると考えられる。

授業等の課題分析

1, 2年生の復習を適宜授業に取り入れ、生徒が何度も既習事項に触れる機会を意識してつくっていく。また補いきれない分は家庭学習（課題）を充実させ、学力差に対応する。同時に協同的な学びや創造的な学びを取り入れ、少し難しめの課題に協力して取り組んだり、自己表現活動など創造的な課題に取り組んだりするなかで、英語学習の楽しさを感じられるよう工夫する。



目指す授業

- ・「楽しい」「分かる」と思える授業
- ・達成感を味わうことのできる授業
- ・生徒同士による学び合いのある授業



授業改善のための具体的な方策

- ・帯活動などで繰り返し既習事項に触れる機会をつくる。
- ・生徒同士で協力して取り組める課題設定と活動を行う。
- ・英語での自己表現活動を通じて、表現する楽しさや達成感を味わわせる。
- ・他者から学び、表現の幅を広げる活動を通じて、発展的で豊かな内容を表現できる力をつける。
- ・机間指導や口頭でのやりとり、形成的評価を充実させ、生徒のつまづきや理解度を把握する。